

ガバナー四方山話

第9回 クラシックとチーズの国

スペイン語にも慣れて、のんびりとスペインで生活を楽しんで3年目になった時に突然、天から降りかかったように、勤めていたPMM会計事務所が世界中での合併話となりました。現在の4大会計事務所への道を最初に歩んだのは良いのですが、自分が所属していたスペインの事務所は、吸収する側で自分としては、特に直接的な被害は無かったのですが、他の欧州の大陸にある国では、自分の同僚が吸収される側になり、拠点事務所に居た日本人の数人が事務所を去ってしまいました。

それまでに築いてきた欧州における日系企業へのサービスネットワークがもろくも崩れ去り、関与先である日系企業に対するサービス体制の再構築が必要になり、日本の事務所に欧州を取り仕切ることの出来る者の派遣を要請したのですが、誰も出せないとの返事で、何と自分にその役をするようにとの事となり、仕方なくKPMG欧州本部が置かれたオランダのアムステルダムに移ることになりました。

太陽がいっぱいのスペインを去るのは大変辛い思いでしたが、これも何かの宿命とあきらめ、アムステルダムに居を移したのが1988年の10月、33歳の時でした。

折角のアムステルダムの生活なので、街の中の伝統的なオランダ家屋に住家を定めてみると近所に有名なコンサートヘボウという欧州の三大オーケストラの一つがあり、クラシック音楽に気楽に接することが出来たのは、大変幸運でした。

その当時のリカルド・シャイーというイタリア人指揮者が率いるオーケストラは素晴らしい音色でベートーベンやブラームス、マーラーからストラビンスキーなど沢山聞くことが出来、またここには日本からは沢山の官費留学の音楽家の皆さんが来ていて、コンサートの後に近所の自分の自宅に彼らが来て、ワインを飲みながらホームコンサートのようなことになったのもしばしばありました。

オランダはフランスやイタリアと並ぶチーズの産地で、ゴーダチーズやエダムチーズはとても美味しくすっかり好物になりました。スモークチーズも美味しく、日本へのお土産によく空港で購入していました。また、オランダには海の物も沢山あって、5月にはニシン祭りがあり、女王様が生ニシンを頂くとニシンのシーズンの始まりでした。大西洋のニシンは、日本のニシンより脂が乗っていて、お刺身醤油につけると油が浮くほどでした。牡蠣やムール貝も実に美味しいものがたくさんありました。

オランダ人は海鮮物の燻製が大好きで種類も沢山あって、ニシンやサバの他ウナギも燻製で売っていました。このウナギをフライパンで温めて頂くと御飯に最高でした。街中の青空市場に行くと生のタコやウナギも売っていて調理の材料には事欠かない街でした。生のサバを手に入れて、しめ鯖を作ったのですが、酢に一晚漬けてもなかなか締まらず、大西洋のお魚は脂が強烈に強いことを知りました。

オランダには乳製品は多くありますが、牛肉はあまり食べないようで、年老いた乳牛の肉の多くはミンチにされコロツケの具になりますが、これが実に美味しいのです。ビターボーレンという丸い小さめのコロツケはビール最高の友でオランダ人の心の故郷です。